

此もの一莖直上して枝葉なく、其狀頗る箭箠のごとくなるによりて、加美乃也と名づく、加美は即神字の意にして、其さま常に異なるによりてなり、又加美乃也賀良、鬼乃也賀良といへるも、其義全くこれに同じ、其鬼乃也賀良は、新抄本草に太清經を引て、赤箭一名鬼箭とあるによれば、即和漢通名なり、又日光也賀良は、此もの下野の日光に産するもの多きによりて名付しなり、盜乃阿之。按に赤箭の人足に似たるよしは、既に弘景注にもみえたり、本草啓蒙にも其説を載たれど、今足の上に盜字を冠して、これを稱するものは、凡盜の人家をうかがふには、物音もせず、ひそかにぬき足して行來するものなれば、此物の今年植し所には、來年は生せずして、ひそかに外の所へ行て生ずること、全く盜のぬきあしして行來するに、その趣や、似たるによりて、俗にこれを盜のあしとはいへる物なるべし、○下

〔和漢三才圖會九十二本〕

天麻天麻

赤箭○中

按赤箭和名乎止乎止之、一

乃天麻也、出武州所澤者良、藝州廣島次之、倭天麻者一莖一花而無枝葉

爲異

〔物類品騭三〕赤箭、天麻

和名ヌスピトノアシ、又タウカシラト云、西國ニハ希ナリ、關東ニハ多シ、

莖ノ長三四尺、黃赤色ニシテ葉ナシ、小薄皮アリテ初メ生ズル時莖ヲ包ミ、長ジテ後莖ニ付テビ

レノゴトシ、蘇頌所謂貼莖微有尖小葉ト云モノ是ナリ、莖ノ狀矢ノゴトクニシテ赤シ、故ニ莖ニ

赤箭ト云、莖上數花ヲ開ク、大サ二三分許、莖ト同色ナリ、根魁アリテ横ニ出ヅ、形小兒ノ臂ノゴト

ク、或ハ小子傍生スルコト芋子ノゴトキモノアリ、其數定ラズ、又小子ナキモノアリ、此物化生ニ

シテ秋ニ至レバ盡ク朽ルナリ、故ニ他處ニ植テ再ビ生ゼズ、又實ヲ植テ生ゼズ、本草ニ其實却透

虛入莖中潛生土内ノ説等信ズベカラズ、東都産上品、一種黃白色ノモノアリ、形狀ハ異ナルコト

ナシ、